
幻想ファミリア

浅縹 凧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幻想ファミリア

【Nコード】

N6950T

【作者名】

浅縹 凧

【あらすじ】

めっさ考え中……

幻想ファミリア〜第一話〜

そこは、どうかの誰かが作ったもう一つの世界。
豊かな自然に豊富な食べ物・・・

その世界は楽園と言えるだろう。

しかし、その世界は地球の100分の1に満たぬほどまだ小さく、
まだ成長途上である。

この世界には行き場を失ったものが迷い込む場所である。

故に不思議な力を持った人間はもちろん妖精や悪魔、天使と言った
非常識な存在も多く存在している。

天界や魔界といった別世界に通じた扉もある。

ここに住む者達はこの世界を現鏡界と呼ぶ。

現実世界とは常識が反転した世界、
逆と言う接点から現鏡界と呼ぶ。

これは、そんな現鏡界に住む。

四人の”ファミリア”の話である。

「ふあああ」

暇だあ・・・」

フロンは現鏡世界の中でも深い森に向かってのんびりと歩いていた。

焦げ茶の髪は少々短めに切っており、

服装は夏を感じさせる紺色の和服である。

身長は175cmほど、

いかにもものんきそうな顔をしている。

そんな彼には似合わず、

右には花畑が広がり、左には湖がある。

この景色は相変わらず美しい。

「誰が似合わないだよ。たくっ・・・」

俺は正直なことに言っただけだ。

それよりフロン！自己紹介でもしたらどうだ？

「あゝめんどい」

じゃあ俺が勝手に説明するぞ？

「勝手にしてくれ」

じゃあ説明させていただきます。

この馬鹿者はフロン

本名は”^{ヒューロン}Huron”なのだが

みんなローマ字読みしてフロンと呼んでいる。

このとおりめんどくさいことは嫌いで

のんき者、自由人で

この前だって幼心は捨てられないと言っていた馬鹿である。

だがこの馬鹿は不老不死であり、時を止めるとい

うなんとまあチートなスキルを持っている。

それに加えて自分の時空を持っており、

そこには色々な物が入っている。

この時空の中は時が止まっているため

焼きたての食べ物を収納して一年後取り出しても

焼きたて直後となんとうらやましい力である。

無限に収納することができ、好きなときに取り出せる

馬鹿にはもつたないスキルである。

ちなみにこの馬鹿は好物の食べ物をいくつも収納してい

て暇さえあれば食っている馬鹿である。

でもお金はあまり持っていないらしい。

まあ他にも御信用の武器とか大切な物とか入れてるみたいだが・

ちなみに自称16歳で本当は966歳である。

馬鹿は死ななきや治らないと言うのに無駄に長く生きてます。

ちなみにこの馬鹿は空も飛べます。

どうやらどこかで浮遊術を取得したらしいです。
まあこれぐらいですねww

「馬鹿言い過ぎだ!」

本当のことを言ってるだけだ!

ああ、そうだ。

俺は作者&ナレーターです。

基本つつこみです。

なんだかんだでよろしくつすww

「はいはい〜そうですか〜」

で?これからどうするおつもり?

俺はずっとお前と話してられないよ?

もうそろそろ背景書かなきゃ・・・

「これから帰ってスマブラXやるんだよ!」

さいですか

フロンはそのまま自分の家に食べ歩いていきました。

しばらくして深い森に入ります。

あたりでは幻惑の森と呼ばれてます。

結構迷うんですよ・・・ここ

そんな気を抜いたら本当に迷いそうなその森の中を進むと
大きな古い洋館が見えてきました。

そうそう。

説明忘れてました。

この洋館はフロンが昔に手に入れたもので

フロンはそのまま洋館と呼んでます。

案外広くて一人で住むと結構怖いほどですww
察してると思いますがフロンが家の家主です。

この家にはフロンを入れた四人が暮らしており・・・
まあ残りの3人は後ほど説明させていただきます。
ではでは

「ああ、割れそうだな、お前の声がすごくうざい」

そのネタは危ないから伏せてくれ！

「はいはい」

そうしてフロンは洋館に入っていました。

幻想ファミリア〜第二話〜

エントランスに入ったフロン
相変わらずフロンは食べ物を口にいる。
てか食べるのやめい！

「ほっとけ」
「はぁ・・・」

フロンは真っ直ぐ歩いて大きな扉を開く。
中に入ると、それはとてもうるさかった。

「フラン！」

またやりやがったな！」

「当たるコウスケがいけないの！」

「そこだ！！」

「コウスケ！あんたねえ！

ハリセンなんて卑怯よ！」

「乱闘に卑怯も何もねえ！」

「アタックチャンス！」

「「えっ？」

カキキーン

キラッ

キラッ

「やったあ！ダブルヒットで私の勝ちい！」

「シキ！？くっコウスケのせいだ！」

「俺しらねえよ！」

とまあこんな感じで三人がスマブラやってますww
「ちょうど終わったみたいだな。

俺も混ぜてくれ」

キャラ選びの場面にフロンが参戦する。

フロンが使うのはスニーキングのおっさんである。

そうそう、説明忘れました。

ここにいる三人

フロン

シキ

コウスケは

フロンの洋館に住んでる同居人であり、

フロンがファミリーと呼ぶ者達です。

みんな仕事を決め協力して

過ごしています。

たぶん・・・

さて、これから彼らの説明入りますが・・・

長くなりそうなので覚悟してください！

ではまずフロンから

彼女は今の所自称フロン

金髪のツインテールで

服装は赤がメインのお嬢様みたいな感じの洋服である。

歳は自称15歳、本当はフギヤーアア！！！！

「殺すわよ？」

すみません・・・

ちよつと死にかけましたが、

問題ないです。

ちなみに彼女の顔はとてつもなくかわいいです。

確実に男子共に囲まれちゃうほどの

妹系女の子です。

まあその見た目と性格に天と地の差がありますが・・・

どうやら彼女は人ではなく、妖精らしいです。

そして対応した魔法陣を出すことによって

この世における全ての属性を操ることができます。

しかし、一部の属性には代償が必要らしいです。

ちなみに得意は虹色の魔方陣から放たれる

全属性をまとめた虹色の大口徑ビーム砲

自称”カオスプラス”です。

魔方陣はどこにでも出せるそうですが

彼女の場合指先が多いです。

そんな彼女の性格は冷酷・・・とまでは行きませんが
少しひどいです。

天然と呼べるような事もしますし

とにかく気分屋です。

そもそも情緒不安定のキチガイですからww

つと危ないぞ！フラン！

「なぜかは自分に聞きなさい？」

えゝ少しばかり火の玉が飛んできましたが

あまり問題ないと思います。

てか炎の弾が壁に当たって燃え始めています。

コウスケ！頼んだ！

「しかたねえな・・・」

サンキューな！

では続きを・・・

フランはフロンの名前をローマ字読みした発端であり、
フロンともっとも付き合いが長いです。

フロンには少しツンデ・ゲフンゲフン。

妖精なので空を飛ぶことができます。

あと名前がフロンと似てるのは完全確実に偶然です。

まあ元がフランなので何かあるのかも知れませんが・・・

そしてこれが一番びっくりなこと、

この洋館でお金の調達、管理をしているのは
誰でもない彼女なんです！

ここ一番驚くところです！

どこから手に入れているのやら．．

ちなみにここだけの話．．

彼女はエロいです！

外見は女でも襲っちゃいそうなかわいい顔してますが

エロいです！

淫乱です！

続いてシキちゃん

本名は四季らしいです。

彼女とフロンが出会ったのはごく最近です。

出会いのお話はまたいつか．．

茶色の髪を肩まで伸ばしており、

顔立ちは渋谷を歩いてたら

ヲタクも黙っちゃいられないほどのかわいさを誇ります。

何よりおしゃれです。

別にお高い装飾品を使っているわけではなく、

お高いお洋服を着てるわけでもありません。

ただ彼女の服のセンスがすばらしく高いだけです。

なので、ものすごくかわいい服装をしています。

服装だけでも目立ちそうですね。

そうそういしませんよ？

普通の服装で目立つ人

とにかく四人の中でかわいさナンバーワンです！

そんな彼女もやっぱり能力を持っています。

彼女の力は物質を直接触らず自在に動かすタイプの超能力です、

念力と言っちゃつですね。

本気を出せば車三台ぐらいは持ち上げられるそうです。

もちろん体そのものを浮かせて飛ぶこともできます。

そんな彼女の仕事は料理です。

これがまたすばらしく上手で
舌の肥えているフランを納得させるほどです。
ちなみに16歳です。

最後にコウスケ君です。

彼の見た目のいい所は・・・

いい所は・・・

と・・・ころ・・・は・・・

まあそれはいいですww

金色の髪をしていて

髪型がショートカットでばさばさ

の普通の少年です。（見た目は）

やっぱり彼も能力者です

その力は蒼い翼に蒼い長剣と

ファンタジーな感じですが・・・

ちなみに普段は意図的に消してるみたいです。

まあいいところをあげると

彼は一応努力家です。

一応ですからね？

そして何より音楽が得意です。

彼に仕えぬ楽器はなく

歌もうまいです。

え？どれくらいかって？

そりやもう

動画あげれば非難の声が一つもなく

イケヴオのコメント弾幕が流れるほどです。

ちなみにそれら以外はぜんぜんダメです↑ここ重要

最後に彼の係りはシキのお手伝いに

基本的な力仕事です。

時々先ほどのような後片付けも・・・

そして14歳です。

まあこれぐらいでしょう。

おっ？

またコウスケが負けたみたいです。

次は彼らの日常について！

今日はここまで！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6950t/>

幻想ファミリア

2011年6月11日13時25分発行